

## 第6学年 道徳学習指導案

期 日：平成27年11月4日(水)第5校時  
場 所：上天草市立維和小学校6年1組教室  
指導者：教諭 坂本 義光

- 1 主題名 家族のために C-15 家族愛，家族生活の充実
- 2 資料名 「はじめてのアンカー」(出典：学研 みんなの道徳6年)
- 3 主題について

### (1) ねらいとする内容項目(価値)について

学習指導要領のC-15「家族愛，家族生活の充実」における第5学年及び第6学年の目標には「父母，祖父母を敬愛し，家族の幸せを求めて，進んで役に立つことをすること」と示してあり，指導の要点には「家族の一員としての自覚をもって，家庭生活に貢献できる」児童を育成するよう示してある。

家族への尊敬の念は，人格や行為が自分より優れていたり，至らない自分を支えてくれる存在であると感じたりしたときに感じると考える。また，家族の幸せとは，家族相互に信頼したり喜びあったり，心が満ち足りた状態であると考ええる。

家族とは，苦楽を共に分かち合い，あたたかな人間関係の中で心が安心する場所であり，他者への思いやりや自分の役割の自覚など，社会性を身に付けていく基盤となる場所でもある。そんな家族との関係が豊かであるほど，児童の人生も豊かなものになると考える。

本主題では，かけがえのない家族とのつながりという視点から，家族一人一人の立場や役割を多面的に考えさせ，自分が家族の支えや助けによって成長してきたことをしっかりと理解させたい。その上で，家族との信頼関係や絆を深め，家族を思いやり，助け合って明るい家庭を築こうとする心情を養うことをねらいとする。

### (2) 児童の実態について

本学級は男子3名，女子5名，計8名である。主題に関わるアンケートの結果は次の通りである。

#### ①あなたは家族と一緒に生活することに対してどう感じているか

##### a 楽しい(4人)

理由 ・相談に乗ってくれたり宿題を教えてくれたりしてくれるので解決できる  
・一緒に話ができるから ・一緒に話したりテレビを見たりできるから  
・話とか買い物とかいろいろ一緒にいて楽しいから

##### b どちらかといえば楽しい(3人)

理由 ・けんかはするけど仲がいい ・一緒にいて楽しい(一人の時間も欲しい)  
・買い物に行って買ってくれる

##### c どちらかといえば楽しくない(0人)

##### d 楽しくない(1人)

理由 (省略)

#### ②家族がいてよかったと思うのはどんなときか。

・悲しいときやうれしいときに相談に乗ってくれる ・家族で出かけるとき ・旅行に行けたとき  
・部活動の試合で応援してくれるとき ・忘れ物を届けてくれたとき  
・何かしたとき助けたりゆずり合いをしたりするところ

#### ③家族(親)とけんかになるときはどんなときか

・決めつけられたとき ・いやなことをされたり言われたりするとき ・冷たくされたとき  
・親に対して悪いことを言ったとき ・私が親の言うことを聞かないとき  
・考えが違ったとき ・宿題をしていて眠ってしまったとき  
・強制的に「あればせろ」「こればせろ」と言われたとき ・親がけんかでうるさいとき ・ない

#### ④自分の親を信頼していますか(1信頼していない⇔10信頼している 平均値6.9)

##### 【低い理由】

・自分ではないのに怒られるから  
・すぐ怒るから  
・すぐ自分を疑うから  
・親のけんかが多いから

##### 【高い理由】

・頼んだらしてくれるから  
・試合では大声で応援してくれるから  
・一緒に共感してくれるから  
・うそをつかないから  
・自分の気持ちをちゃんと理解しているから

⑤自分の親に信頼されていると思いますか（1 信頼されていない⇔10信頼されている 平均値6. 6）

**【低い理由】**

- ・手伝いが足りないから
- ・（親との）約束を守らないから
- ・大切なことは任せてくれないから
- ・（親の）言うことを聞かないから

**【高い理由】**

- ・信頼されているいろいろ頼まれるから
- ・手伝いを頼まれるから
- ・お母さんが「信頼してる」と言ってくれるから
- ・家族の仲がいいから

- 大半の児童が「楽しい」「どちらかといえば楽しい」と回答しているのに対し、一人だけ「楽しくない」と回答している児童がいる。
- 家族がいてよかったと思うときの回答は、価値の幅が広いことが分かる。心のつながりを感じている児童もいれば、物や旅行など「与えてくれるもの」に喜びを感じている児童もいる。
- 家族とけんかするときの理由の大半は、児童の自己中心的な態度が浮かび上がっている。
- 「親を信頼している、親から信頼されていると思う」の平均値は、決して高くない。保護者アンケートでは、「子どもを信頼している（8. 8）」「子どもに信頼されていると思う（8. 1）」との差が大きく、思いを聞き合い、確かめ合う場が必要であると考ええる。

(3) 資料について

本資料は、運動会のリレーではじめてアンカーに選ばれ父親に見てもらえると思っていた「まき」が、急遽父親が漁に出ることを知り悲しい気持ちになるが、父親の気持ちを理解し父親の身を案じる気持ちに変わっていくという話である。児童は、親と約束していたことが実現できなかった時の気持ちを共感的に理解できるものと考ええる。自分の気持ちだけを優先し暗い気持ちになっている「まき」の姿に気付かせ、父親の気持ちや立場を知り自分の考え方を省みた「まき」の心情を深く掘り下げることにより、家族を大切に、自分にできることを進んで行おうとする心情を育てるために適した資料であると考ええる。

(4) 指導に当たって

- 「つかむ」段階では、アンケートの結果から家族の存在意義を問うことにより価値への導入を図る。また、家族への思い（意識）と家族に対する言動（態度）のずれを感じさせ、明るく楽しい家庭を築くために自分に必要な心は何か問題意識を持たせる。
- 「求める」段階では、父が来ることへのうれしさと突然約束が果たされなくなったときの憤りを共感的に理解させる。祖母の話聞き自分の考え方を見つめたまきの心情を深く掘り下げることにより、自己中心的な考えが強かったことを押さえる。また、保護者の方に父親の気持ちについて考えてもらい、児童に話してもらうことで、考えが深まるようにする。
- 「深める」段階では、本時の学習を基に、テーマ発問「どうすれば家族との信頼関係が深まるか」について各グループ（親子）で話し合わせる。話し合い後に時間があれば、グループごとに保護者の方から感想をいただき思いを温める。
- 「あたためる」段階では、家族への手紙を書くことを通して、自己の心を見つめ直させる。家族に感謝するとともに、自分にできそうなことを進んで行おうとする心情を育てたい。ついわがままになったり反抗的な態度になったりすることがあった自分を見つめ、親子参加型の授業を通して親の気持ちに触れさせることにより、よりよい考えを見出そうとする学びを促したい。

**【共同研究との関連】**

**【視点1】** 学び合いを引き出す  
豊かなかわり合いのある  
言語活動

**【視点2】** 学びを振り返る  
思考過程の可視化と  
学びの振り返り

**【視点3】** 学びを支える  
一人学びのUD化と  
効果的なICTの活用

**【視点1】**  
アンケートを基にめあてに迫る課題（テーマ発問）を設定する。その課題解決を図るために、発問やテーマに対する児童同士、児童と保護者の意見交流を行いながら学びを進める学習活動を設定することで、より主体的・協働的な学びを引き出す。

**【視点2】**  
児童と共に設定した課題（テーマ発問）に対して、再度展開後段で十分に話し合う場を設定することで、児童・保護者の価値に対する自己理解の再構築を促す。  
児童・保護者の思考を適切に整理した板書を行う。

**【視点3】**  
発問の精選を図り、児童や保護者が意見を考えたり交流したりする時間を十分確保する。  
意見交流の中にグループ活動を設定し、友達・保護者と協働しながら道徳的価値及び自覚が深まるよう工夫する。

◇インクルーシブ教育の視点から

【基礎的環境整備】

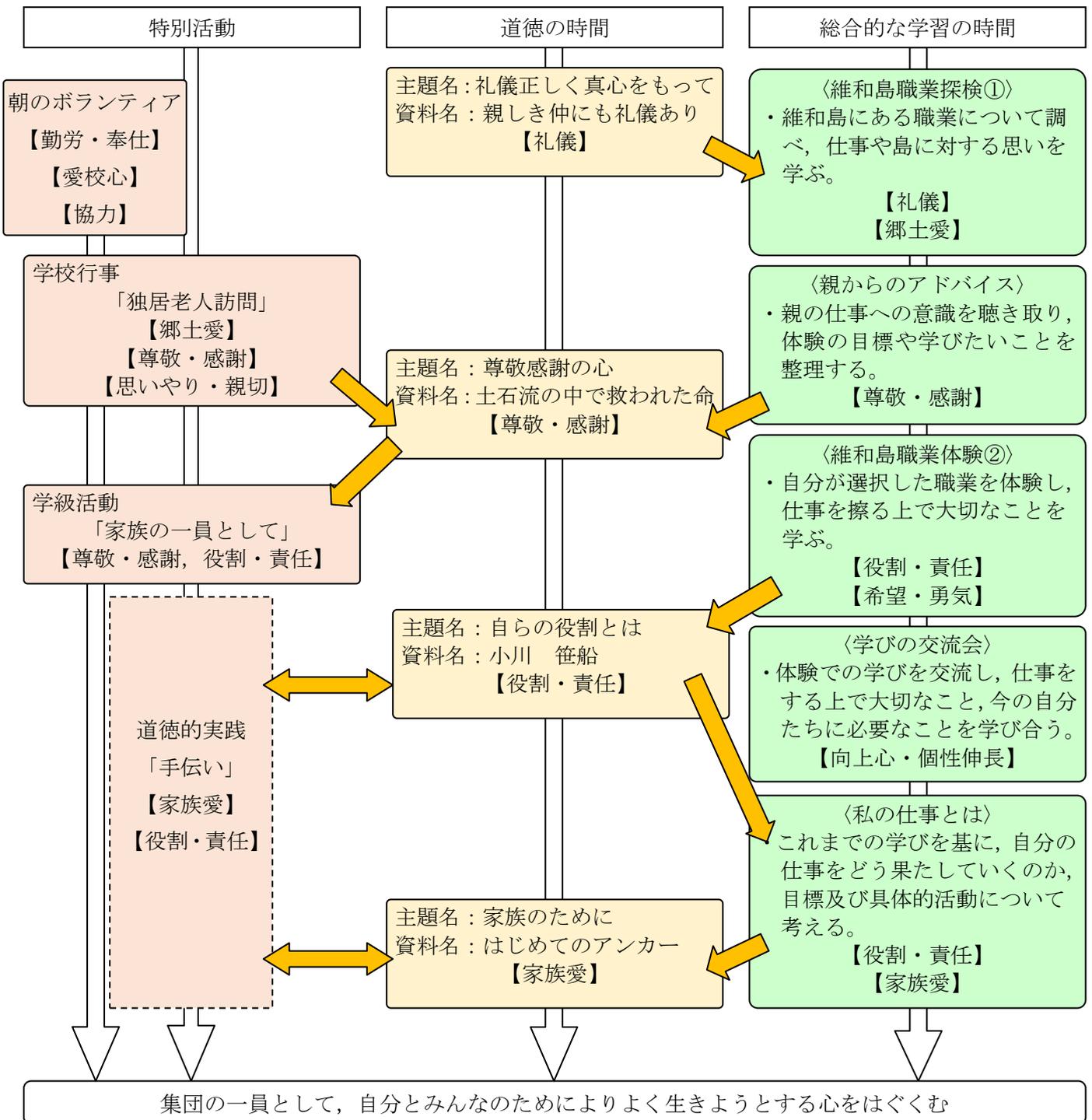
- ・グループによる話し合いが円滑に進むよう、事前に人数や構成、学習リーダー等について配慮したグループ編成を行う。
- ・移動式黒板を活用して板書を二つ行う。一つは資料板書（資料内容を整理したもの）、もう一つは学びの板書を設け、児童の思考が明確になるような板書を心掛ける。
- ・一人一人が学びを実感できるよう、事前の道徳的価値を把握し、事後の自己の成長に気付けるようにする。

【合理的配慮】

(省略)

4 総合単元的な道徳学習（主に特別活動と総合的な学習の時間との関連）

2学期の計画（【 】内は、道徳の内容・関連項目）



5 本時の学習

(1) ねらい

まき（児童）や父（保護者）の気持ちを考える活動を通して、信頼関係を深めるためには、互いに思い合うことが大切であることに気づき、家族の一員として協力しようとする心情を育てる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	主な発問と児童の反応	指導上の留意点	備考
つかむ	導入 3分	1 現在の家族関係(児童の思い)から学習のめあてを設定する。	T「家族に対する思いをみんなにアンケートで聞きましたね。」 T「なぜ親子で、この差(信頼関係に対する思い)が生まれたのでしょうか。どうすればより心はつながるのでしょうか。」	*家族関係の問題を確認するとともに、よりよい関係を築きたいという願いを持っていることを明らかにする。	アンケート結果
<b>【テーマ発問】 家族との信頼関係を深めるには、私に何が必要だろう</b>					
求める	展開 前段 22分	2 資料「はじめてのアンカー」を聞き、話し合う。 (1) 運動会を楽しみにしているとき、父が漁に出ることになったときのまきの気持ちを考える。  (2) 祖母の話聞いた後のまきの気持ちの変化について考える。	T「Vサインを出しているときと父が漁に出ることを知ったときのまきはそれぞれどんな気持ちだろう。」  Vサインを出しているとき C「とてもうれしい」 C「ウキウキしてたまらない」 C「やったー」 C「ありがとう お父さん」  漁に出ることを知った時 C「お父さんのうそつき」 C「大嫌い」 C「どうして仕事を優先するの」 C「漁に行かないで」  【まきと父の気持ちを考える】 T 児童に対して 「まきの心がチクリと痛んだのは、どんな心に気付いたからですか。」 C「自分のことしか考えていなかった。」 C「お父さんもきっと見に来たかったはずなのに。」 C「お父さんの気持ちが分かったから。」 T 保護者に対して 「お父さんは、まきさんに対してどんなことを思っていたでしょう。」 C「すまない。だけど分かって欲しい。」  【親子で考えを交流する】	*まきの喜びと悲しみを対比することで、自分の経験を思い出させ、まきの気持ちに共感させる。  *自分の経験を想起させて、自分の考えをまとめさせる。 *まきの心が痛くなった理由を考えることで、父親の立場や家計を支える漁師としての立場などを多面的に気付かせたい。 *グループでの話し合いを設定し、多様な考え方を交流させることで、自分のことしか考えていなかったことや「本当は行きたかった」父の気持ちを考えさせる。 *最初に児童に自分の考えを伝えさせた後、保護者の方々に父の気持ちを代弁してもらおう。 *交流後、友達の考えでよいと思ったことを加筆させる。	ワークシート
深める	展開 後段 15分	3 学習したことを振り返り、信頼関係を深めるために必要ことを考える。	T「今日の学習やこれまでの生活を振り返り、家族との信頼関係を深めるために大切なことは何か考えてみましょう。」	*導入時のアンケート結果をもう一度提示し、今までの自分と学習後の自分の心の変化を感じさせる。  《評価》(対話・付箋・ワークシート) 家族との信頼関係を深めるために、互いに思い合うこと、協力することの大切さに気付いている。	付箋紙 交流シート
あたためる	終末 5分	4 保護者への手紙を書く。	T「今日学習したことを基に、おうちの人に手紙を書きましょう」【夢・希望】	*本時の学習で考えたことを基に、児童は保護者へ、保護者は児童へ手紙を書かせることで、家族への思いを温める。	手紙用シート